

2023年2月10日

## 2023年3月期 第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の2023年3月期第3四半期連結決算は、売上高 253,146 百万円、経常利益 6,574 百万円となりました。2023年3月期連結業績予想については、売上高 338,000 百万円、経常利益 5,500 百万円を見込んでおります。

### 【2023年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大があったものの、個人消費が底堅く推移したことや、出入国規制の緩和によるインバウンド需要の回復もあり、景気は緩やかな持ち直しの傾向が続きました。

しかしながら、原料穀物相場は、今年度前半の急騰、高値推移、その後の激しい値動きの状況からは徐々に落ち着きを取り戻しているものの、依然として歴史的な高値で推移しております。為替については、昨年10月に1ドル150円を付けた円安からピークアウトしたものの、依然円安水準が続き、また、LNG価格の高騰を受けた都市ガス単価が11月に最高値となるなど、エネルギーコストが更に上昇し、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた2nd Stage「中期経営計画 20-22」の最終年度を迎えました。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策の推進に努めております。

当第3四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」において、プレミックス事業を発展・進化させるための基幹工場として船橋工場内に「船橋プレミックス第2工場」を新設し、6月より操業を開始いたしました。また、8月には油脂食品・糖質事業において、より一層の製品供給の安定化、コスト低減、付加価値向上を目的に、辻製油株式会社と業務提携を発表いたしました。両社の持つ経営資源を有効活用することで、更なる競争力強化を目指してまいります。

「③社会的課題解決への貢献」では、「昭和産業グループ 環境目標」を新たに設定いたしました。CO2排出量46%以上削減（グループ全体2030年度目標、対2013年度）、食品ロス発生量30%以上削減（昭和産業及び食品ロス発生量が年間100t以上のグループ会社6社2025年度目標、対2018年度）、水使用量原単位12%以上削減（グループ全体2030年度目標、対2019年度）の実現を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高が253,146百万円と前年同期に比べ37,890百万円（17.6%）の増収となりました。営業利益は4,562百万円と前年同期に比べ144百万円（3.3%）の増益、経常利益は6,574百万円と前年同期に比べ1,265百万円（23.8%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,043百万円と前年同期に比べ761百万円（23.2%）の増益となりました。

### 【2023年3月期連結業績予想】

第4四半期以降も為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、2022年11月11日に「通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL：03-3257-2042 担当：赤松